

# 対象者理解の実践

## Ⅱ. 支援を受ける人の 育ちや体験から来る特性

2021年度のぞみの園(基礎研修会・中級編)  
知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会

脇中洋

大谷大学社会学部

## 2. 育ちの過程で発症する障害

- (1) 高次脳機能障害
- (2) 摂食障害・睡眠障害
- (3) 解離性障害
- (4) パーソナリティ障害
- (5) 愛着障害
- (6) 依存症

# (1) 高次脳機能障害

- 外傷性あるいは脳疾患による**後天的な脳損傷**
- **記憶障害、遂行機能障害、感情失禁、衝動性、易疲労性**など
- 多様な原因・多様な症状(能力はあっても続かない)同じ高次脳機能障害でも個人差が大きい。
- **見えない障害**(本人も周囲も特性が捉えきれずに混乱する)→**障害受容の困難さ**
- 家族や周囲の人間にとっても、変わってしまった当事者に混乱し、**人間関係が破綻**しがち。
- 感情が爆発しそうになった時には「**タイム・アウト**」(自らしばらくその場を外してもらおう)のが有効。

## (2) 摂食障害・睡眠障害

### 〈摂食障害〉

- 女性に多い。
- 拒食と過食を反復するケースが多い。
- 過食の後に吐き戻しや下剤使用。
- 「どうせ吐き戻すなら、買うのは無駄」と、食料の万引きに至り、窃盗が累犯化するケースも。

### 〈睡眠障害〉

- 寝付けない。眠りが浅い。早朝覚醒。昼夜逆転。
- いつまでも寝ている。
- 睡眠導入剤から薬物依存のケースも。

→ぼんやりしている時にやりとりをするよりも、覚醒と(良質な)睡眠というメリハリのある生活を目指す。

# (3) 解離性障害

- 心的外傷(トラウマ)による発症。
- 心的外傷体験に直面することによる自我の崩壊を回避するための防衛反応とされる。(生き残るためには「無かったことにする」しかすべがない)。
- ぼんやりしていることも多い(焦点の定まらない目つき)。
- 現実味の無さ(離人感)。
- 感情鈍麻や他者への共感性の乏しさ。
- フラッシュバックによるパニック。
- 突然暴言を吐いたり、暴れたりする。
- 特定の出来事について記憶にない(解離性健忘)。

## (4) 愛着障害

- 表面的に目立った行動ではない(背後に想定される障害)
  - 通常の人距離を保てずに極端な**対人的依存行動**を示す場合もあるが、
  - 親しみを示すことなく**対人的回避行動**を取る場合もある。
  - 根底にあるのは**基本的信頼感**を抱くことなく成長したこと。
  - 人への愛着感を抱きながらも、適切な距離や表現を取って**安定的関係**を維持することが難しい。
    - …抱き着いて来たかと思うと、そっけなく振舞うなど、矛盾する態度を取る。
- ← **アンビバレンツ(両価的)な葛藤状態**

## (5) パーソナリティ障害

- 性格の著しい歪み(先天的なものではない)
- A~Cの3つの群と10タイプ
  - …妄想性、反社会性、境界性、自己愛性、依存性、回避性、強迫性など
- B群は、「人を振り回す」対人操作性が特徴。
- 巧みな言い訳、抱き着いて甘える、無理な要求、話を盛って相手を加害者にする、責任を取らないなど
- 他者を引き付けるための虚言や自傷行為等の問題行動に戸惑わされる危険性
- 他者を「敵か味方か」に分け、態度が急変する
- 対人的な距離を維持することが重要
- 明かな虚言でも、とがめずにひとまず受け止める
- 共同守秘を維持しつつ職員間で連携する。
- スーパーバイザーによる後方支援を行う。

## (6) さまざまな依存症

- **物質依存** (大麻、薬物、アルコール、カフェイン、睡眠薬等)

- **行動依存** (ギャンブル、買い物、窃盗、自傷行為等)

- **対人依存** (セックス、暴力等)

…金銭管理に失敗しやすい(不安が高まると行動化しやすい)。金銭をめぐる対人トラブルも。

→ 孤独や「寂しさ」との付き合い方が重要。一人で持続

可能な楽しみは何かを探す。

→ 自助グループの活用

### 3. 成育歴から身につけた特性

(1)「育ちの剥奪」(不適切な養育、虐待)

(2)矯正施設での「適応」

(3)医療的・福祉的支援の経験

(4)投薬の影響

(5)問題行動の反復

# (1) 育ちの剥奪

- 他者への**基本的信頼感**の未獲得
  - …対人不信、過度な依存、**愛着障害**
- **自己効力感**の欠如
  - …小さな失敗を乗り越えて、「自分にはやれる」という感覚が乏しく、「どうせやっても無駄」という無力感が強い(**学習性無力感**)。
- **対等な人間関係**を経験していない
  - …**支配・服従関係**の枠組み、相手は「自分より上か下か」で対応する「やるか・やられるか」
- 自己の特性認識(**障害受容**)が出来ていない
  - …何ができないのか把握していない。
    - 自分の**率直な思い**を出さない。
    - 何を援助してもらえばいいのか分からない。
    - 人に上手に頼ることが出来ない

## (2) 矯正施設での「適応」

- 24時間すべて決められた日課と行動  
…言われたとおりにしておけばよい。  
(ASDにとっては構造化されており「適応良好」。) → **我慢が破綻**すると「暴発」
- 自己選択・自己判断を要しない生活に馴化  
… **自由に戸惑う**(出所時の不安)。
- (他者との関係において) **自己主張しない**。
- **無気力**…「どうせ無理」(学習性無力感)
- 一見すると従順だが、主張し始めると一方的で自分勝手。
- **自主性や自発性**を発揮しない。

### (3) 医療的・福祉的支援の経験

- 福祉や医療への**不信感**
  - …よく分からないままに、**一方的に**自分の生活の場、生活の仕方を決められた。
  - …専門家として、「**上から目線**」で大事なことを一方的に決められた。
  - …自分の思いは聞いてもらえないうちに、**介入**してくる。
  - …頼んでもいないのに、**しつこく**関わってくる。
  - …放っておいて欲しいのに、あれこれ言うってくる。

→ 支援者は、不信感や疑惑を抱かれるところからスタートしなくてはならない。

## (4) 投薬の影響

- その他精神疾患(統合失調症、双極性障害などの気分障害、てんかん)による投薬を受けているケースがしばしばある。
  - 抗不安薬や睡眠導入剤による影響(眠い、ぼんやりする)が出ていないか？
  - 薬が途切れたり、薬が変わったり、投薬量が増えることによる影響で、イライラが募っていることは無いか？
  - よく眠れているか、ぼんやりしていないか、食欲や排便の状況はどうか、変化に早く気付く必要がある。
- 医療との連携も重要。

# (5) 問題行動の反復

〈問題行動のいろいろ〉

- 自殺未遂

- …事前の徴候(自暴自棄な発言、身辺整理に注意)

- リストカット・自傷行為

- 他害行為(暴力・暴言・器物損壊)

- 連絡を絶つ、行方不明になる。

- …どんな状況で何が引き金になっているか。

- …問題行動を支援者へのメッセージとして使っていないか。

# 育ちの剥奪(児童虐待)と発達障害

## —基礎編のおさらい—

「児童虐待 × 発達障害」の関係について考える前提として、  
「**発達 = 成熟 + 学習**」であることを念頭においてください。

- 育ちの剥奪(児童虐待):

  - ←環境要因による**育ちと経験**の問題なので

    - 「**学習**」要因

- 発達障害:

  - ←生まれながらの**生得的障害**なので「**成熟**」要因

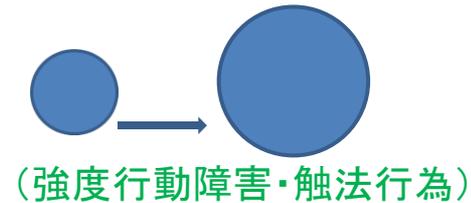
# 育ちの剥奪と発達障害の関係

望ましい環境

望ましくない環境

「育ちの剥奪」・虐待

- 非定型発達  
(発達障害)

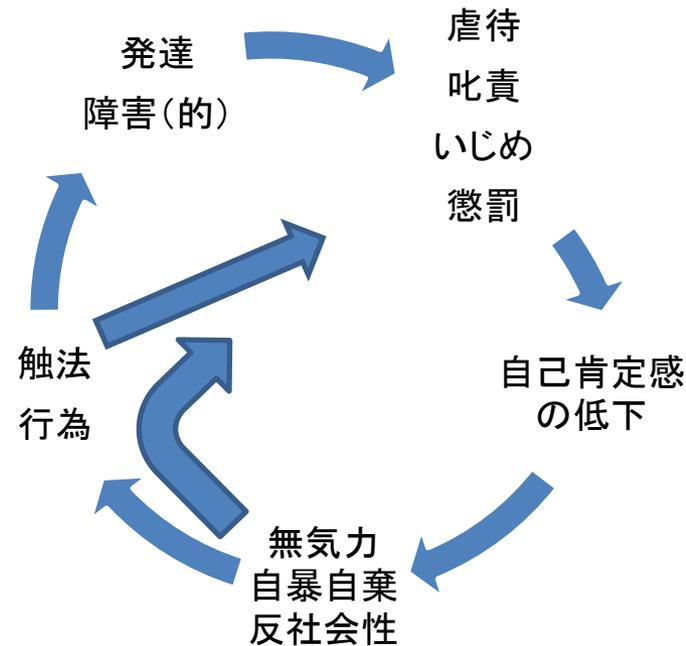


- 定型発達



# 最初は被害者だった。

発達障害は「育ちの剥奪」(虐待)を引き起こしやすい  
「育ちの剥奪」(虐待)は発達障害的症候を引き起こす



→ **加害 = 被害体験からの反転** (が生じる条件として、思春期以降のエネルギーの高まりや望ましくない友人関係の影響があげられる)

# 過剰なストレスへの対処

## —基礎編のおさらい—

- 皆さんは強いストレスを受けた際にどう対処しますか？
  - やけ食いをする、友達としゃべる、ふて寝をする、眠れなくなる等々の反応が出てきます(睡眠障害)。アルコールやギャンブル、ドラッグ、暴力も想定されます(依存症)。
  - あまりに強烈なストレス下にあると、(起きていても)これは現実ではない、自分がここにいるのではない(離人感)、ここに居るのは私ではない(解離性障害)といった反応が出てきますし、他者への共感性どころではなくなります。→ASDと認識される。
  - 逆に不注意で落ち着きなく、感情的になったり衝動的な行動が目立ったりします。→AD/HDと認識される。
  - 「落ち着いて過ごす」ためには、まずは安心・安全で存在を肯定的に受け止められ、情緒的に落ち着いている必要があります。
  - それが損なわれている(育ちの剥奪)ゆえの状態像を、発達障害とみなしている可能性があります。
- 状態像の原因を探る前に、しっかり観察して正確な特性把握を。

# 虐待によるPTSD

- 心的外傷後ストレス障害(PTSD)は、災害や犯罪被害等の1回限りの出来事で生じることもありますが、長期間にわたる反復的体験によっても生じます(複雑性PTSD)。
- 持続的な暴力や暴言、面前DVにさらされた経験がある。
- 育児放棄(ネグレクト)されて育った。
  - …いずれにしても安全や安心が損なわれた環境で、不安や緊張状態の中を生き延びてきている。
  - …そのなかで形成されてきた無力感や対人不信感は容易には払拭できない。
  - 安全・安心をお互いに脅かさない環境の確保が第一。
  - 安定した睡眠と食事の次に、穏やかな人間関係や、ささやかな楽しみを見いだせれば。

# 再び「障害受容」について

—自分で自分の特性(障害)が分からない対象者—

- 知的障害や発達障害の疑いレベルか、それに近い状態について、**障害受容**を持ち出すのは、正確ではないかもしれません。
- しかし生得的な特性に加えて**育ちの剥奪**を抱えている対象者の状態像を把握するのは、明確な発達障害よりも複雑で困難です。
- 対象者は何ができて、何ができないのかを知れば、適切な支援が出来るはずですし、対象者も**的確な手助け**を求めることができるはず  
です。
- 軽度知的障害者に対しては、支援者の方がその特性を把握し損ねることが多いものです。(少しできるとそれ以上のこともできると感じたり、少し失敗すると何もできないと捉えがち)
- 当事者の特性が**理解されにくい**から、本人も**理解しにくい**わけです。  
→まずは支援者側が**当事者の特性を丁寧に知る**ことによって、  
本人も**自分の特性を知る**ことにつながって行きます。
- 本人が生活の積み重ねの中で獲得できそうなこと(目標)と、環境を整えて支援を継続すべき事柄(本人が支援を依頼すべき事柄)を、  
識別し見極めることが重要。

# 複合的障害、輻輳的症状に対して…

- いわば、**生得的な発達特性 + 育ちの剥奪 + 経験によって獲得した特性**が積み重なっている中で大切なのは、**正確な状態像の把握**
- **生得的な発達特性** → **適切な支援、環境を整える**
  - \* 落ち着く環境、分かりやすい言葉かけ、視覚的支援等
  - 本人も配慮を申し出ることが出来るようになると良い。
- **獲得された後天的特性** → **支援をしつつ、可能な範囲での変容を促す。**
  - \* 失敗を回避する、目標を設定して小さな成功体験を積み重ねる等
  - \* その際に、「率直で対等な人間関係」のなかで対人的信頼感(安心感)を培っていくことも大切。